



保健事業実施計画(データヘルス計画)

計画期間 平成29年度～平成32年度

データヘルス計画とは・・・データ分析に基づいたPDCAサイクル

大仙市国保では、生活習慣病予防のための特定健診・特定保健指導など、被保険者一人ひとりの健康増進のための保健事業を実施しています。

保健事業を効果的に行うために、大仙市には**どのような課題**があり、その課題を解決するために**どのような取り組み**が必要なのかを検討し、取り組みの結果**どのような効果**があったのか、より良い効果を得るために、取り組みを**どのように改善**するべきか再検討しながら事業を進めていくことが大切です。

課題と**効果**をデータ分析に基づいて確認し、**取り組み**を**改善**しながら、保健事業をより効果的・効率的に進めて行くための道筋がデータヘルス計画です。

計画の趣旨と背景 (P1～P2)

近年、健診結果や疾病状況等のデータベース化が進み、個人または地域全体の健康課題を分析するため環境整備が進んでいます。こうしたなか、政府の「日本再興戦略」(平成25年6月14日閣議決定)において、保険者は、レセプト等のデータの分析に基づき、被保険者の健康保持増進のための事業計画として「データヘルス計画」を作成し、保健事業を推進することとされました。

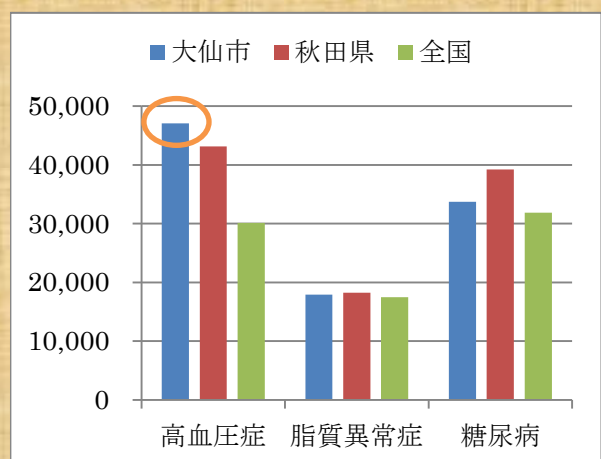
大仙市国保においても保有しているデータを活用しながら、被保険者の健康増進と、長期的な医療費適正化のための保健事業を効果的・効率的に実施するため大仙市国民健康保険保健事業実施計画(データヘルス計画)を策定するものです。

診療報酬明細書の分析 (P6～P11)

図表1：疾病別医療費 (黄色：生活習慣病)

順位	疾病名	割合
1	高血圧症	7.6%
2	糖尿病	5.5%
3	統合失調症	4.6%
4	関節疾患	4.0%
5	慢性腎不全(透析あり)	3.8%
6	うつ病	2.9%
7	脂質異常症	2.9%
8	大腸がん	2.8%
9	不整脈	2.2%
10	脳梗塞	2.0%

図表2：生活習慣病1人当たり医療費



課題

データが示す大仙市の現状 (P3~P20)

- ・医療費の多くを生活習慣病が占める (図表 1)
- ・生活習慣病の中でも高血圧症の医療費が国県に比べて大きい (図表 2)
- ・生活習慣病の危険性が高いメタボリックシンドロームの割合が大きい (図表 3)
- ・高血圧と脂質異常によるメタボリックシンドロームが80%超え (図表 4)

効果

目標を設定し事業効果を数値で判定 (P21~P25)

- ・メタボリックシンドローム割合を、平成31年度まで、平成27年度の秋田県平均値 (男性：27.4%、女性：9.6%) 以下に減少させることを目標とします。

【目標値】メタボリックシンドローム割合

性別	現状 (H27)	目標 (H31)
男性 (県平均)	32.7 % (27.4 %)	27.4 %
女性 (県平均)	12.6 % (9.6 %)	9.6 %

取り組み

ターゲットは高血圧と脂質異常 (P26~P28)

- ・特定健診・特定保健指導

生活習慣病予防のため、メタボリックシンドロームに着目した特定健診を実施します。健診により、生活習慣病の危険性が高いと判定された方には、特定保健指導を実施し、生活習慣改善をサポートします。

- ・特定保健指導の非対象者への保健指導【新規】

腹囲とBMIが正常範囲内 (非メタボ) であっても、医療機関への受診が必要な方に、受診勧奨及び、個々の状況に応じた生活習慣の改善のための保健指導を行います。

- ・栄養調査・栄養指導事業【新規】

過去1カ月に何をどのくらいの頻度で食べたかを調査票に記入してもらい、不足または取り過ぎている栄養素を本人に分かりやすく伝え、改善のための指導を行います。また、大仙市全体の傾向を把握し、全市民の食生活改善に繋がることを目指します。

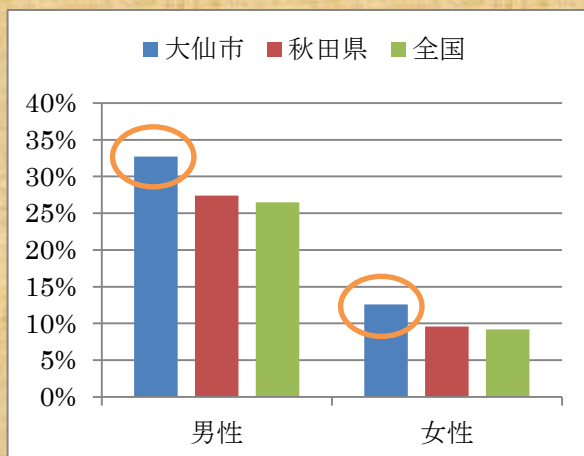
改善

より効率的・効果的な保健事業へ (P29)

- ・計画の最終年度に、目標の達成状況及び医療費・健診結果の状況を確認し、次期計画に反映します。計画期間中であっても状況に応じて随時見直しを図ります。

特定健診結果の分析 (P12~P20)

図表 3 : メタボ該当者割合



図表 4 : メタボ因子の重複状況

